

人口と世帯		昭和41年(3月末)	昭和46年(3月末)	昭和51年(3月末)
人口		2,821人	2,274人	2,032人
男子		2,950人	2,289人	2,119人
女子		5,771人	4,563人	4,151人
世帯		1,258世帯	1,177世帯	1,092世帯
転入した人	20人			
転出した人	86人			



お誕生おめでとう  
 中野 今宮雅司さん 長女  
 小藪 藤井正さん 長女  
 上森 美和さん 長女  
 下鹿野 新山進さん 二男  
 京造 木村忠久さん 長男  
 京造 磯具長信さん 二女  
 京造 女幸恵さん 長女  
 京造 亀岡義久さん 長男  
 京造 男昭宏さん 長男  
 おくやみ 申し上げます  
 久保 宇都宮健太郎さん (58才)  
 郷 藤原左津さん (79才)  
 共栄 泉オヨリさん (73才)  
 汗生 土居傳内さん (73才)  
 汗生 浜田吉春さん (68才)  
 森 富永トヨさん (81才)

明るい家庭 (●)子どもの心を豊かに (●)話のほずむわが家 (●)感謝の気持で「大切に」運動五月の目標

# 子どもが描いた輝く未来

肱川町の百年後

## 肱川小学校は鉄筋四階建

近代日本の夜明けといわれた明治から、すでに百年が過ぎました。町内の各小学校でも、同じように百年のおもみのある歴史を刻み、開校百年を記念して、それぞれに特色のある行事がもたれ、過去の輝やかなしい歴史と伝統をふまえて、新しい百年に向けて出発している昨今です。

さて今月は、この開校百年を記念して、中野小学校六年生の児童達が描いた百年後の肱川町の展望を紹介いたします。

まず、小学校は、どなります。そして、児童数も、千数百人と大なるでしようか。現中五つの小学校が統合され、肱川小学校と

四階建となり、エレベーターがついています。教室は、特別教室が多く、それぞれ専用の教室で勉強できる食堂もあります。そして、教育機器の普及により、校内テレビ放送等が発達し、授業は、テレビによるものが多いです。

## 国立公園の誕生

鹿野川湖を中心に、観光開発が進み、今の国立自然公園から、国立公園となります。公園の中には、動物園、遊園地、植物園、博物館等ができて、この公園は、行楽を目的とするだけでなく、子供達の勉強にも役立つように作られています。

## 発達する交通機関

未来の交通機関には「新幹線」が通るようになります。果てしない夢があります。それに、滑走路が短かくてよい飛行機が開発されるため、車道と歩道に区分されます。また、各地域から中心地への交通には、モノレールが設置され、通学、通勤等に便利になります。鉄道も発達し、肱川へも「まぼろしのミラクル」になります。

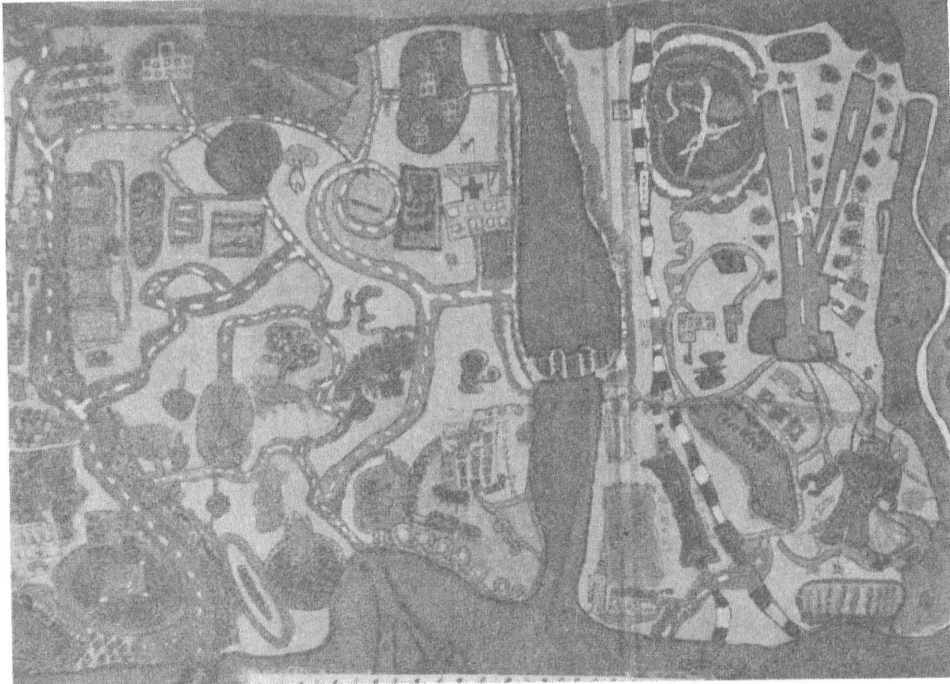
## 満たされた町づくり

都市に集中している現在の人口は、地方へ分散し、肱川町も人口が、大巾に増えてきま

や自然に害をあたえない安全な工場です。また、町には、デパート、図書館、小遊園地等が

町づくりは、そのままた、町には、デパート、図書館、小遊園地等が

町づくりは、そのままた、町には、デパート、図書館、小遊園地等が



子どもが描いた肱川町の未来図

## 新しい社会と文化の創造

子供達は、肱川町の未来を、断片的ではあ

描きました。二十世紀を迎えます。それは、

描きました。二十世紀を迎えます。それは、

## 私の願い

中野小六年 村田順子

「肱川、肱川」。海底トンネルをいくつも通って、新幹線がやって来ます。飛んで来た飛行機。こんな日が、百年後、肱川にやってくるでしょう。



私は、肱川が、ますます栄えて便利な生活が出来るように、子供達の遊園地にまた、かわった遊びをする遊具などが出来て、楽し

17) 今年の卒業生八十七人、うち進学した人、五十七人(六六割)、就職した人、三〇人(二四割)。就職者のなかには各種学校で学ぶ人が多い。学校を出て、町内に残る人がいるかどうか。女子は、結婚適令期に、一度は帰郷するのは確実。

○大谷栄養学級修了式。(2・6)年十回のうち、七人以上出席した二十六人に修了証書授与。栄養、料理実習を修了した家庭における腕前に期待。

○消防団出初式。酷寒のなか、キビキビした動作で日頃の訓練を披露。(2・11)

○高令者林産物栽培作業開始。正山老人クラブ、つじじ苗の植付(2・23)。造成した九町の畑に三、〇〇〇本(一年生)三年生各一、〇〇〇本。来年植付け予定地には、じゃが芋六〇畝を植えて活用。

○来年には、クラブに収入がと、国旗を掲げて大活躍。

○小藪老人クラブでは、しいたけ菌菌植込作業(4・5)。三月五日に整地した敷地に一、〇〇〇本の原木をふせ込んだ。ここでも作業日には、国旗が掲げられている。

○正山婦人会。七〇人がマイクロバス三台で、町内の施設を視察。部落の名前は聞いていても、見るのは初めて。遠距離通学生が多いのは、正山ばかりでない。「百聞一見にしかず」。今年、観光地への旅行を止めて町内旅行の計画が大成功と評判。(4・5)

肱川の百年後、どうなるでしょう。私は、自然がこわれていくような気がします。私は、百年後の人々も、自然を守ってもらいたいと思います。肱川が、栄えていくなかで、百年たっても、「お花見」とか「つじ」などが、いつまでも有名になるように、そして、よい施設がたくさんできて、この美しい肱川の緑と太陽は、いつまでものこしてほしいと思います。

